

2016年10月24日

化学工学会 第47回秋季大会（2015年9月9日（水）～11日（金）、北海道大学にて）  
シンポジウム＜材料・界面部会 晶析技術分科会＞  
「固相の品質制御のための晶析技術に関するシンポジウム（材料・界面部会）（口頭発表）」  
報告書

オーガナイザー  
滝山博志（東京農工大学）  
前田光治（兵庫県立大学）

本シンポジウムは全て公募によるもので、合計22件の講演発表が行われた。本秋季大会の初日に開催された。大学から19件、高専から1件、企業から2件の発表が行われた。最近の発表傾向としてほとんどが大学からの発表となっており、企業からの発表を推奨するような企画が必要と思われる。本シンポジウムの特徴として、オイリングアウト関連の発表2件、バイオ晶析関連の発表が2件、デキストリン関連の発表が2件あった。

発表12分、質疑8分であることは事前に案内できていたと思われ、ほぼタイムテーブル通りに発表を進行できた。晶析研究関連の研究は多岐にわたっているためか全日、聴衆が閑散とすることはなかった。晶析分科会企画のシンポジウムでは総合討論を最後の時間に行っていたが、質疑時間が8分であったため、特別に討論の時間を設けなくとも、8分の時間内に議論できたと思われる。

なお、本シンポジウムの公募内容を次に記載し記録しておく。

材料・界面部会/晶析技術分科会では、核化成長の晶析現象の理論的な展開や、新たな結晶性物質の創成、そして固相の品質制御のための応用研究を展開している。晶析に関する新たな技術は、医薬、食品、新素材開発、環境など幅広い分野に展開されている。本シンポジウムでは晶析技術の横断的な情報交換や議論の場を提供する。なお、活発な討論を期待すべく、本シンポジウムでは「発表12分＋討論8分」の時間配分とする。

以上